

## <基本情報>

所在地：長崎県南島原市

## <農場概要>

- 経営面積：約200ha
- 有機農業をはじめ、栽培期間中農薬不使用栽培、特別栽培レベルなど、消費者に信頼される、環境にも優しい栽培方法によってできた農産物を組合員133名で生産し、産地直送販売。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和50年（1975年）5名の青年農業者が産直を目指して発足。その後、長年に渡って続けられてきた近代農業をもう一度見直し、消費者に安全・安心な食べ物を供給するために、昭和62年（1987年）から県内の企業と協力して肥料の有機質成分割合を高めてきた。
- 平成18年（2006年）に「有機農業推進法」が施行されたこともあり、同年、有機JASの認証を取得。

## <販売について>

- 全国の消費者グループや大手生協との取引が約7割を占める。契約栽培のため、価格変動が抑えられ、安定的な収益に繋がっている。
- 長崎県諫早市及び長崎市に直売所、福岡・鹿児島・長崎の生協35店舗にインショップを常設。

## <収量や品質について>

- 収量は天候に左右されることが多い。
- 日々の作業記帳や作物ごとの栽培管理計画に基づく、徹底した品質管理を実践。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
品種の選定や作期の分散(有機以外では露地から施設へシフト)
- **雑草対策**  
人手・草刈り機による除草。
- **土づくり**  
土壌分析による適正施肥。天然物質に由来する成分を用いた肥料、自家製堆肥の施用、緑肥作物の導入による土づくり。

## <苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近年、気象変動が激しく毎年異なるため、その対応が難しい。

## <現場の課題>

- 送料が高騰している。(価格へ転嫁できない)

## <今後の対応>

- 新規就農者の確保とともに、青年農業者への有機農業の推進。



【お問合せ先】TEL.0957-84-3393

会社ホームページ <https://www.tentoumusi.net/>

## <基本情報>

所在地：長崎県北松浦郡佐々町

## <農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約8.3ha（茶）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



香港での販売



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和44年から消費者からの「無農薬の茶を作ってほしい」という要望に応え、全茶園で、農薬不使用の栽培を始め、昭和50年からは化学肥料・化学農薬を全く使用しない有機栽培による茶の生産・販売を開始。
- 平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。
- 令和7年（2025年）にUSDA(アメリカ農務省)有機認証を取得。

## <販売について>

- 有機栽培茶の特徴を活かして幅広く販路を拡大。
- 平成28年に香港へ輸出を開始し、翌年、ニューヨークにおける店舗販売及びインターネット販売を開始、現在、ヨーロッパ、台湾等へ輸出先を拡大。
- 消費者や取引業者を対象に「茶摘み会」等を開催し、茶園の見学をしてもらうことで、有機栽培の信頼を高め顧客増加を実現。
- 顧客や企業が求める新商品の開発に取り組み「十宝草」のペットボトル等を開発。



【お問合せ先】TEL.0956-63-2707

会社ホームページ：<https://kitamura-seicha.jp/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
食酢の葉面散布により害虫の忌避を図り、茶樹の耐病性の向上を実現。
- **雑草対策**  
草刈り機や人手による除草。
- **土づくり**  
新・改植には、土壌分析を実施し、堆肥、稲わら、カヤを投入することで、茶園の排水性・物理性を向上。施肥回数を慣行栽培より多くすることで、肥料の吸収率を向上。



## <苦労しているところ>

- 除草作業や整せん枝による耕種的防除に長時間費やすこと。

## <今後の対応>

- 地域に根ざした物づくり（茶づくり）が重要だと考えており、地域の農業者や商工業者と連携して組織（輸出グループ、有機グループ等）を作り、茶以外の農産物を含めた新たな商品開発や組織での販売を行うことで、地域を盛り上げて行きたい。



## <基本情報>

所在地：長崎県五島市三井楽町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場48ha (かんしょ、大麦、小麦)
- 有機JAS認証のかんしょを加工し、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋を製造



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 大阪市でコンサルティング会社に勤務し、将来、農業コンサルティングに従事したいと考えていたところ、義理の祖父の出身地である当地で農地を取得したことにより10年前に営農開始。当初は、農薬や化学肥料を低減した栽培に取り組んでいたが、土づくりや生物多様性保全の取組、他産地との差別化、加工品の付加価値向上などを考え、平成30年(2018年)に有機JAS認証取得を開始し、令和2年(2020年)には、全ほ場の有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- かんしょ(青果用及び加工用)は、全国の小売店、飲食店、生協、通販会社、大手コンビニ等へ販売。大麦、小麦は、卸業者に販売。
- 高付加価値化として、かんしょを、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋「おしゃぶー」や「ひとくち焼き安納芋」、和洋菓子用原料として「かんしょペースト・パウダー」に加工し、自社で製造・販売。同パウダーを活用し新たな商品として腸活サプリメント「.hel(ドットヘル)」を開発し販売。



## <輸出について>

- 商社と協業し、国内で取引需要が少ないかんしょの規格品(S~2S)を、オーガニック需要が高い香港を中心に輸出。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
自社製造の天然由来の液肥や環境にやさしいBT剤を散布することで、病害虫被害を抑えている。
- **雑草対策**  
かんしょと麦の輪作を実施。春まで麦を栽培することにより夏季の雑草抑制に繋がり、機械除草の回数を抑えている。黒マルチシートを、栽培畝に加え通路部(畝間)にも敷設することで除草作業の負担を軽減している。
- **土づくり**  
3年に1度の頻度で土壌診断を行い、必要なミネラル等を施用。肥料(液肥)は、有機JAS適合資材(納豆菌、菌糸剤)を中心に、自社の堆肥工場で製造した肥料を使用。



## <苦労しているところ>

- 人口減少により、耕作放棄地が増加。これまで10haに及ぶ耕作放棄地を再生したが、再生作業以上に苦労したことは、農地の地力向上に時間を要すること。



## <今後の展開>

- 五島市三井楽町は、20年間で3割以上人口が減少。耕作放棄地の解消、移住者・市民が働きたい会社づくり等により地域に貢献し、「オーガニックをプラットフォームとした街づくり」を将来のビジョンとしている。2026年には、農業と観光を融合させた地域活性化の取り組みの一環としてリゾートホテル(レストラン併設)の開業を予定している。

【お問合せ先】TEL. 0959-84-2989

ホームページ：<http://osyaburi.jp/index.php>

## <基本情報>

所在地：長崎県五島市吉久木町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場26ha（茶8ha、レモングラス3ha、転換中15ha）
- 有機緑茶、有機五島つばき茶、有機レモングラスを生産・加工



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 約10年前に台風による潮風害（塩害）に遭い、茶葉がひどく褐変し、茶園が枯れたようになった。知人である有機農業者の助力により、複数の発酵乳酸菌をブレンドした有機土壌改良資材をほ場に投入したところ、翌年には、茶園が回復。これを機に有機栽培に転換し、**平成28年（2016年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 販売部門として平成13年に「有限会社グリーンティ五島」設立。
- 生産量の8割は、京都の茶商（海外向け取扱が主）へ販売。
- 生産量の2割は、ネット販売や島内のスーパー等小売店への直接販売。販売額の6割を直接販売が占める。
- 緑茶、紅茶のほか、自生するヤブツバキの葉と、緑茶をブレンドした「つばき茶」や「ハーブ（レモングラス）」を販売。レモングラスは、カステラの原料やクラフトビール、大手スーパーのプライベートブランド茶系飲料の材料として提供。

## <収量等について>

- 有機栽培に取り組んだことにより、300kg/10aであった秋番茶の収量が3倍近く獲れることもある。
- 有機栽培をはじめめる前は、防除費に数百万円要していたが、現在は、10万円を要しない程度で済んでいる。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
土づくりをしっかりと行うことで、作物が丈夫に生育するので、たまに食酢を散布している。
- **雑草対策**  
草刈り機及び手作業で除草。
- **土づくり**  
牛ふん堆肥及び豚ふん堆肥にフルボ酸と発酵乳酸菌をブレンド（腐葉土に近い土づくりを目指す）し、茅を混ぜ込み、十分に発酵させ完熟した堆肥を10aに年3回（1t/回）程度散布している。



## <苦労しているところ>

- 除草作業は、草刈り機及び手作業で行っているが、つる性の雑草は、なかなか根元から取れないところ。

## <今後の展開>

- ネット販売等の直接販売の割合を増やしながら、取引相手から望まれる数量を確保し、新たな商品の提案や製造を行っていききたい。
- これまでは、「生産」に注力してきたが、「加工」にも力を入れ、両輪の連携をさらに高めたい。



【お問合せ先】TEL. 0959-72-4426

ホームページ：<https://greentea-goto.com/>

## <基本情報>

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村

(平成29年度熊本県農業コンクール 優秀賞(地域農力部門)受賞)

## <農場概要>

- 自然農法で米(酒造好適米)作りに取組む生産者の合同会社
- 令和7年産は14名で山田錦5haを栽培
- 全国の酒造メーカーに出荷し、できた酒はふるさと納税でも販売



## <有機農業に取組むきっかけ>

- 代表(高島和子氏)は、南阿蘇村に移住し自然農法による山田錦の栽培に取組むが醸造に必要な量が確保できず、村内で栽培賛同者を募り、平成22年に喜多いきいきくらぶを発足。令和5年に法人化。
- 南阿蘇は特別栽培の取組農家が多かったこと、**自然農法の酒米が比較的高単価であった**ことが、賛同者の継続栽培への意欲に繋がる。

## <契約・販売について>

- 全量買上げや醸造した酒の地元販売を条件に蔵元と契約。
- 実需者から「**碎米が少なく歩留まりが高い。作柄の影響を受けにくい安定した品質。**」と高評価。好条件での取引を実現。
- 肥料・農薬等の生産資材の購入費が抑えられ、慣行栽培と比較して利益を実感できる。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫および雑草対策**  
自然栽培により圃場内に害虫を退治する天敵が生息。  
除草機(手押し式、動力式、乗用)を使った除草。
- **土づくり**  
収穫後の稲わらを裁断し、土壌に還元。苗箱には土とくん炭のみを使用し、圃場には有機質肥料を含め、肥料を投入しない。

## <栽培上の工夫等>

- 強く美しい稲姿を目指し、7月中旬を目安に強めの中干しを行うことで、台風等による倒伏被害も軽微となり、粒ぞろいのいい米が生産できる。

## <現場の課題>

- 除草作業を中心に重労働が多く、後継者が育ちにくい。

## <今後の対応>

- 自然農法による高品質な酒米の価値を理解いただける実需者へ、高級酒用原料として販売拡大。
- 自然農法に取組む後継者の育成及び技術支援。
- 乗用型水田除草機を活用した除草作業の省力化。



【お問合せ先】南阿蘇村役場農政課 有機農業推進班  
TEL.0967-67-1111

## <基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

## <農場概要>

- 生産農家4軒で会社を運営（正社員2名、パート3名、特定技能外国人6名）
- 経営面積：4ha（全て有機JAS認証取得）  
ベビーリーフ（ルッコラ、水菜、ターサイ、ビート、レタス類）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 高冷地で減農薬栽培が盛んな地域であったが、取引先からの勧めで有機農業に転換した。
- 平成19年（2007年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 通年出荷を基本とし、栽培計画を立て、季節に合わせて品種を選定し、幼葉ならではのおいしさを提供。
- 契約栽培でインターネット等を活用しながら販路の確保に努めている。
- 熊本県内を基本に、九州～関東まで幅広いネットワークを活かし、卸売事業者やレストラン、スーパーへ出荷。



## <病虫害対策・除草対策・土づくり>

### ● 病虫害対策

太陽熱利用による土壌消毒を実施。（湛水後、農業用ビニールで被覆し、ハウス内を密閉）

### ● 土づくり

土着菌（放線菌）に着目した堆肥を使用。メンバーの中には、山野草を利用し、1～2年発酵させたものを使用している。

## <苦労しているところ>

- 過去にはコンテナ出荷を行っていたが、現在は販売先に応じた小分けパッキングを行うため、出荷経費・輸送コストが増加している。販路の確保も課題。

## <今後の対応>

- 2022年より人材不足を補うため、特定技能を活用し外国人雇用を開始した。雇用人数が増加していることから、日々のコミュニケーションや生活面のフォローを強化し、人材の定着を図る。



【お問合せ先】 TEL.0967-72-9494

メール：[seiwaminerarukai@outlook.jp](mailto:seiwaminerarukai@outlook.jp)

## <基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

## <農場概要>

- 経営面積：3.7ha（全て有機JAS認証取）  
（ピーマン、里芋、玉ねぎ、にんじん、コカブ）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災のボランティア（炊きだし）で食べ物が手に入らない状況を経験し、自ら農産物を作りたいと思ったことがきっかけ。東京から有機農業が盛んな山都町へ移住。
- 平成26年（2014年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 生協との契約栽培が中心。関東、関西方面に出荷。
- 新規就農者同士の販路確保のため「ASO GAIRINZAN ORGANIC合同会社」を設立。（メンバー10名でリレー出荷することにより取引先との契約量を確保）
- メンバーで規格、品質等を統一するため、定期的に学習会を開催。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 雑草対策

人参は太陽熱養生処理（植付け前のマルチ被覆）により雑草を抑制。

### ● 土づくり

科学的分析により土壌状態を把握。状態にあわせた資材（馬糞、竹の粉、雑草等）の投入を行いながら土づくりを実践。

## <苦労しているところ>

- 今では、経営が確立しているので、苦労はしていないが、新規就農当時は機械、設備への投資に苦労した。

## <今後の対応>

- 個人経営の規模を拡大するよりは、規模の小さな家族経営が参画し、共同で営農を行いながら、出荷グループを発展させていきたい。



【お問合せ先】TEL.090-3547-1589

メール [yaski525@gmail.com](mailto:yaski525@gmail.com)

## <基本情報>

所在地：熊本県宇城市

(平成28年度環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞)

## <農場概要>

- 経営面積：約5haで、水稻、野菜類（約20品目）を栽培（米、生姜、里芋、セロリー、その他露地野菜）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和45年就農。当初は慣行栽培をしていたが、農薬の使用による身体面への負担を感じたこと。また、農薬の多投入や農産物の外観品質への評価に疑問を持ち始め、有機農業実践者に出会い昭和50年代始めから有機農業に取り組む。
- 平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。

## <理念>

- いのち・暮らし・環境を守る有機農業を推進し、子や孫、次世代につなぐ。

## <販売について>

- 有機農産物と一目でわかるように、販売するすべての農産物に有機JAS、グリーン農業表示マーク（熊本県のグリーン農業制度）、自社ロゴマークを1枚のシールにして貼付し販売。
- JA系の直売所、くまもと有機の会（生産者主体の産直を行う組織）及び九州内の生協に出荷。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

作物の輪作で病害虫の発生を極力少なくする体系づくり。  
太陽熱養生処理で土壌の病害虫殺菌処理。

### ● 雑草対策

い草、稲ワラ、黒ポリフィルムによるマルチングや、太陽熱養生処理で除草の労力を軽減。

### ● 土づくり

緑肥（ソルゴー）をすき込むことにより、土壌環境を改善。  
肥料は、有機JASに対応したボカシを使用。

## <現場の課題>

- シカによる食害の増加。設置している侵入防止柵が低いいため、より高い柵への変更が必要。

## <今後の対応>

- 更なる有機農業の普及を図り有機農産物の安全供給と面的広がりを目指すため、ネットワーク化、新規就農者の育成に取り組む。
- 地域の特産物である「生姜」加工品の生産・販売を拡大する。



【お問合せ先】 TEL.0964-43-0234

メール [yuk\\_morita@kuc.biglobe.ne.jp](mailto:yuk_morita@kuc.biglobe.ne.jp)

## <基本情報>

所在地：熊本県上益城郡御船町

<農場概要> 75ha(水稲、にんじん、ばれいしょ、など約100品目)

うち有機 J A S 認証30ha(水稲、にんじん、ばれいしょなど)、構成員50名

## <理念>

自然と共に生きる丁寧な暮らしを ひとり一人が実践し、「有機農業生産者、加工者、流通事業者消費者が共に支え合い、自分自身、家族、友人、知人に食べて欲しいものを作り販売すること」をテーマにし、熊本の「有機の基地」をめざして日々の活動に取り組んでまいります。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和51年に有機農業生産者と消費者を結ぶ専門機関「株式会社熊本有機農産流通センター」を設立。その後、有機農業を広く伝える目的で昭和60年に本会が発足。

## <有機 J A S 認証に取り組むきっかけ>

- 顔の見えない消費者へのアピールには第三者が認定した有機 J A S 認証が不可欠のため取得。

## <主な販売先>

- 消費者への直接販売（季節の野菜セット）
- 生協



【お問合せ先】 TEL.096-281-7355

HP <https://kumamotoyukinokai.jimdo.com/>

直売所：オーガニックはあと（熊本市東区湖東2-1-3）

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 圃場ごとに土壌分析及び生産物の栄養成分分析を実施し圃場にあった土づくりにより、健全な作物の栽培（セルロースの強化）ができ、病害虫耐性も強くなる。また、「太陽熱養生処理」により土壌物理性の改善（土壌の団粒化・水はけ改善）、秀品率の向上、生物性の改善による病原菌抑制及び雑草の種を熱等で死滅させることで除草作業を殆どしなくてよくなる。
- 人参の慣行栽培では単収3.5トン、圃場にあった土づくりを実施した場合、単収6トン程の収穫でき、栄養成分では糖度が向上し、硝酸（エグミ）が減少しおいしい農産物が出来る。

## <苦労しているところ>

- 異常気象による影響。
- イノシシ・シカ等による鳥獣被害。

## <今後の対応>

- 10年後を見据えて生産量確保にむけ、新規就農者・転換者に対して研修会の開催。

## &lt;基本情報&gt;

所在地：熊本県葦北郡芦北町田浦

## &lt;農場概要&gt;

- 面積：14 ha（甘夏50aで有機 J A S 認証取得）
- 従業員：8人、役員：2人
- 栽培品目：柑橘類（レモン、はるか、せとか、不知火、甘夏、津之輝（つのががやき）等）



## &lt;有機農業に取り組むきっかけ&gt;

- 明治33年（1900年）にレモンやネーブル、グレープフルーツなどの苗木を導入（当時では先進的農家）。
- 昭和50年（1975年）頃の甘夏の黄金期に、先々代と先代が、甘夏の食味が落ちたと感じたことをきっかけに、その原因を研究し、果樹栽培には微生物を意識した土づくりが重要と認識。減農薬・無化学肥料による果樹の持続可能な栽培方法に取り組み、平成6年（1994年）に会社設立。
- 平成15年（2003年）に「甘夏」で有機 J A S 認証を取得。

## &lt;販売について&gt;

- 有機 J A S 認証の甘夏（以下「有機甘夏」）の8割は（株）マルタ（全国展開の関連卸売流通会社）を通じWEB等で消費者へ、残り2割は消費者へ直接販売。販売価格は、認証品でない通常の甘夏の2割高くらい。
- 有機甘夏の味は各方面から好評で、**収量も認証品でないものと遜色ない。**
- 有機甘夏以外も特別栽培で生産し、（株）マルタを通じ、消費者や大手スーパー、生協、学校給食向けに販売。



## &lt;病害虫対策・除草対策・土づくり&gt;

- **病害虫対策**  
圃場周辺に草花を生やしておくなど、病害虫の天敵が住みよい環境を確保することが重要。
- **雑草対策**  
園地全体を見ながら適期の除草が必要。土が安定してくると樹に絡みつくような雑草がなくなる。
- **土づくり**  
微生物のバランスを整えることが重要。土の表面から20cmくらいまでを良い微生物に支配させると、作物全体のバランスを整えることができる。魚カスや菜種カス等15種類以上の有機原料を発酵させた堆肥（㈱マルタ・グループが製造）を園地全体に散布している。

## &lt;苦労しているところ&gt;

- **高温対策**  
高温などの要因に対してどのような症状が出るか解明されていないことが多く、対処方法に苦慮している。今後、高温の影響をいかに少なくし、収量を確保するかが課題である。

## &lt;人材育成&gt;

- 次世代を担う人材育成を目的に、平成9年（1997年）頃から研修生の受入れを開始。修了生の中には、熊本県外から就農し甘夏栽培（有機 J A S 認証取得）を始めた農業者もいる。



【お問合せ先】 TEL.0966-87-0061

ホームページ：<http://tsurudayuukinouen.web.fc2.com/>

## <基本情報>

所在地：熊本県宇城市不知火町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

## <農場概要>

- 延べ面積：約36ha (宇城市、氷川町、産山村、水俣市等)

主な栽培品目：有機JAS認証トマト、かぼちゃ、たまねぎ等の野菜類、柑橘類  
(柑橘類の一部のみ特別栽培)



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 「農業は自然を守る産業である」という信念のもと、有機栽培で自立できる農業を目指し、市内で有機農業に取り組んでいた澤村氏を中心に、2001年に柑橘農家4戸、野菜農家2戸の計6戸で設立。2003年に法人化。(2025年11月現在、11戸で構成)

## <販売について>

- 販売先は、大半が生協及び量販店。また、少量ながら県内の直売所や自社オンラインショップでも販売。
- なお、販売先との商談にあたっては生産物の栄養分析結果(糖度、ビタミンC、硝酸イオン、抗酸化力)を活用し、十分な品質が確保されていることを説明。



## <消費者への情報発信について>

- 年に1回、消費者等との交流を目的にほ場見学、農業体験ツアーを開催。生協と協力し、生産物に対するアンケートを実施し、消費者ニーズを把握。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

腐敗するような資材は投入せず、虫害発生が少ない時期に栽培。ハウス内は加湿状態としない等の環境負荷をかけない栽培を行うことで病害虫を抑制。また、タケノコや山菜等から抽出した天然エキスを使用。

### ● 雑草対策

通路や畝の上にカヤやわらを敷くことにより、雑草発生を抑制。

### ● 土づくり

土壌バランスを重視し、野草堆肥及びボカシ肥料を施用。野草堆肥は、2年程熟成。また、ボカシ肥料は米ぬかを中心に魚粉やカキ殻等加え、自社肥料製造施設で製造。土壌分析に加え、野草堆肥とボカシ肥料の成分分析も毎年実施することで、土の状態を常に把握するよう努めている。

## <苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、販路拡大のため積極的に売り込んだがうまくいかなかった。その後の品質向上により自然と販路が拡大した。

## <今後の課題>

- 有機農業の担い手育成。培った技術や農地の次世代への継承。



【お問合せ先】TEL. 0964-33-7240

ホームページ：<http://higoayuminokai.co.jp/>

## <基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

(令和3年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

## <農場概要>

- 面積：3.70ha(うち有機3.70ha)
- 従業員：家族2人と従業員2人、農繁期アルバイト1～2名
- 栽培品目：にんじん、ばれいしょ、たまねぎ、キウイモ等



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 有機農業を営む義父母から離農の相談を受けたことを機に、平成19年に就農を決意。翌年、県立農大等で農業の基礎を学び、平成21年に有機農業2.1haを経営承継し、**同年(2009年)に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 平成23年に、共同出荷によるコスト削減や安定的な出荷及び新たな販路確保を目指し、「山都町有機農産物出荷協議会」を代表として設立。平成25年には同協議会と他社との事業統合を経て、平成28年に山都町最大の有機農産物出荷プラットフォーム「(株)肥後やまと」(有機農業者48名で構成)の法人化に携わった。販売の一元化により、それぞれが実施していた荷造りや出荷作業を一か所に集約化したことで、参加農家の労働時間の大幅な削減や流通コストの削減、規模拡大に寄与。また、出荷品目が増えたことが強みとなり、個人やレストラン等への新たな販売先の確保に繋がった。なお、生産量はリスクマネジメントの観点から、1カ所1/3未満を適正とし、個人で出荷している。
- 山都町有機農産物のブランド化を図るため、共通デザインシールを導入し、積極的にPR。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
鳥獣被害軽減のため、休耕期間を設けないよう輪作体系を実施。
- **雑草対策**  
雑草防止対策は、従来の適期耕耘管理や中耕除草に加え、太陽熱養生処理、畝間マルチを実施。
- **土づくり**  
地域の未利用材資源の活用(おから, 粃殻, 米ぬか, 竹チップ等)、畜産堆肥、落ち葉等をブレンドし、成分及びミネラルを配合した自家調製の“バイオ堆肥”や緑肥を施用。土壌分析結果に基づき、施肥設計ソフトを活用し、施肥を実施。

## <ICT(情報通信技術)等の活用、情報発信>

- 有機JAS認証ほ場の栽培計画、管理記録は、作業時や計画時にいつでも確認できるようクラウド上で管理。
- 農機具保管庫は、通信型の防犯カメラを設置。
- 消費者とのコミュニケーションをとり、互いの顔が見える販売とするため、インターネット販売の全てに手紙を添えている。
- SNSを活用し、有機農業の日々の作業等を発信し、交流を深めている。
- 新設された道の駅に野菜の他、加工品の開発/定着に取り組みを行っている。



【水田抑草ボート】

【お問合せ先】TEL. 080-5375-2480

フェイスブック→



## <基本情報>

所在地：熊本県山鹿市鹿本町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場58a（イチゴ（うち育苗床13a））
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 大学卒業後、海外青年協力隊を経てJICAに就職し、支援活動を通して海外における有機農産物への意識の高さを実感。また、子育てのコミュニティを通して、食の安全安心の大切さを強く意識するようになり、40歳で就農を決意。海外生活で生のイチゴを食べる機会が無かった子供達の「イチゴが食べたい。」の一言でイチゴの有機栽培を目指す。

## <販売について>

- 大手スーパー系列の有機農産物ショップを中心に、ネット販売や生協等へ販売。なお、有機農産物ショップとは出荷時期を通して同じ単価で契約し、通常の販売と比べて高単価を実現。
- 令和3年（2021）から海外（アジア）へ輸出。
- 無添加ジャムやスパークリングワイン、冷凍イチゴなどの加工品開発により出荷ロスの削減と有機イチゴのPRを実施。



## <消費者等への情報発信について>

- ホームページや「農産物直販サイト」を活用して、消費者との情報交換を実施。
- 有機農業を志す研修生を受け入れ、次世代の農業者を積極的に支援。



## <病害虫対策・土づくりなど>

- **病害虫対策**  
捕殺に加え、防虫ネットや白マルチの反射利用による害虫の侵入抑制対策（物理的防除）、チリカブリダニやコレマンアブラバチなどの天敵導入及びBT剤やフェロモン剤利用（生物的防除）等を組み合わせ病害虫発生を抑制。
- **土づくり**  
阿蘇地域に自生するカヤ（野草）を敷き藁としてほ場の畝間に施用。栽培終了後にすき込み、太陽熱養生処理を行い土壌構造を改善。
- 効率的な生産に適した品種への転換。果形が大粒で果皮が硬い品種「恋みのり」に転換したことで、パック詰めへの労力削減と輸送性が向上。



## <経営の課題>

- 更なる収量の増加を目指し、栽培技術を向上。
- より簡易的な有機栽培方法の確立・体系化及び雇用者の確保。

## <今後の展開>

- まだ認知度の低いイチゴ有機栽培を広め、栽培の裾野を広げていきたい。また、年齢・能力・性別を問わず多くの人々が活躍できる農園を作ること、農業の魅力を広め、地域農業に貢献していきたい。

【お問合せ先】TEL. 050-1303-4066  
ホームページ：http://itofarm.org/

## <基本情報>

所在地：大分県宇佐市

## <農場概要>

- 野菜3.7ha、全て有機 J A S 認証を取得
- 従業員数：8名
- 「口にも体にもおいしい野菜が当たり前の世の中」を目指して年間約30品目の野菜を栽培



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 人が野菜を育てる「人」メインの考え方でなく、「野菜」自体が健康に生育する環境を人が整えるという「野菜(と自然)」を主体に物事を考え、35年前から有機農業に取り組む。
- 平成14年(2002年)に前身である「佐藤農園」として有機 J A S 認証を取得、平成27年(2015年)の法人化に伴い「さとう有機農園株式会社」として再取得。

## <販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。食の安全・安心が求められる時代の流れとともに販売量が増加。
- 有機栽培は特別な栽培でないと認識。生産性を上げることで消費者が当たり前に手にとってもらえる価格設定に努める。
- 関東、関西、名古屋の卸売業者、生協を中心に、百貨店、セレクトショップに販売。最近は業務用・加工用としてレストランなどにも販売。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
自然環境に基づいた栽培環境を整えることで野菜本来の抵抗性を発揮させる農薬を使用しない栽培を実現。農薬(有機 J A S 指定資材)はできるだけ使用せず、太陽熱消毒や人の手による捕殺で対応。
- **雑草対策**  
気候に応じた作物を栽培することで出来るだけ除草の手間を省く。草の発芽前に特注の草かきで「土を動かす」ことにより生えにくくする。
- **土づくり**  
植物由来のボカシ(大豆、米ぬか等)を中心に土づくり。市内の酒造メーカーの焼酎粕や近隣生産者の廃菌床など、地域資源も活用。落ち葉を使用した踏み込み温床による育苗。

## <苦労しているところ・現場の課題>

- 従業員の確保。パートではなく責任ある仕事を任せる正社員を雇用したい。

## <今後の対応>

- 近隣で有機農業に取り組む農業者が、お互いに作物を分担し栽培することで安定供給が可能となる。そのような仲間を増やして連携・共存することで有機農業全体の発展につなげたい。



【お問合せ先】TEL.0978-32-0734

会社ホームページ <https://www.satoyuki-nouen.com/>

## <基本情報>

所在地：大分県宇佐市

## <農場概要>

- 水稲17ha（すべて有機栽培。うち3haで有機JAS認証を取得）
- 従業員数：7名
- 世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の豊かな環境を保全するために、環境に負荷をかけない自然に沿った米作りに取り組んでいる。

## しあわせ米®

有限会社宇佐本百姓

農薬はつかわない  
肥料はつかわない  
土を大切におもい  
もみ種は自家採種



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代が有機農業を手がけていた頃、台風で周囲の慣行栽培の稲は全て倒伏したが、有機栽培の稲は被害はなかった事など有機栽培の特質を見聞きし、有機農業に関心を持った。
- 有機栽培での販売価格等について、将来を見据えて試算、経営が成り立つことを確信し、平成15年に就農。
- **平成20年（2008年）有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 販売する商品は、農薬・肥料を使用しない自然農法で栽培したお米を『しあわせ米』として販売。
- 販売先は、会員を中心に、オーガニックEXPO等のイベントでのマッチング（人脈形成等）を通じて、レストラン等へも販売。
- 販売価格は**圃場の有機栽培経過年数に応じて差をつけている。**
- 令和7年7月「みどり認定」取得。10月「みえるらべる」に登録。温室効果ガス削減の取組と生物多様性保全の取組で星3つを取得。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
有機圃場には天敵となる昆虫や微生物がいるためか、ウンカやいもち病などは圃場には入って来ない。
- **雑草対策**  
代掻きの作業度合いをセンサーで検知し、モニターで確認して均平を確保。「あめんぼ号」（水田除草機）で田植え後1週間ごとに3回除草。
- **土づくり**  
稲藁や自然の堆肥を使用、土を清浄化することを心がけている。

## <苦労しているところ>

- 圃場が粘土質のため固く、耕起の時期と方法に苦労する。
- 規模拡大で慣行栽培から転換した圃場は作土が浅く、深耕等で有機栽培に適した圃場にするのに苦労する。
- 地域のJAは有機農業への関心が薄いこともあり、乾燥調製から販売まで自社で行っている。

## <今後の展望>

- 将来的には地域の50haの圃場を、若手3～4人で有機栽培に取り組むことも検討したい。



【お問合せ先】TEL.0978-33-3265

ホームページ <https://siawasemai.com>

## <基本情報>

所在地：大分県臼杵市野津町

## <農場概要>

- 面積：6.3ha（すべて有機）
- 従業員：11名
- 栽培品目：サラダ系野菜を中心に年間約12種



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成24年（2012年）に総合健康企業フォレストグループの一員として設立。「食」を介した健康への貢献を目指し、作物が持つ本来の味を引き出し、安全・安心な旬の野菜を消費者に届けるべく有機栽培のみに取り組んでいる。
- 平成26年（2014年）に有機JAS認証を取得。
- 平成29年（2017年）に有機JAS小分け認証を取得。

## <販売について>

- 販売先はホテル・旅館・デパート・大手量販店や個人経営のレストラン等。



【お問合せ先】TEL.0974-24-3210

会社ホームページ <https://www.ohana-honpo.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり、苦労しているところ>

「安全で安心・高栄養化・新鮮」を最大限意識して作業を行っている。

- 全圃場で有機JAS認証及び有機JAS小分け認証を取得しており、JASで認可されている生物由来の農薬も一切不使用。土づくりには臼杵市の有機用堆肥「夢堆肥」と「活丸くん」を使用し、安全性を保つためにすべて種まきから行い、時間と手間を惜しまずじっくりと育てている。
- 葉物のサラダ野菜を中心に栽培しているため、味・色が濃い、きれいな野菜にこだわっている。栽培においては、適切できめ細かな水管理は欠かさず、栽培前の除草対策も徹底し、野菜に十分な栄養がいきわたるようにしている。
- 鮮度の保持にもこだわっており、収穫した野菜は約10℃に保った保冷車にて出荷場に運び、袋詰めと箱詰め作業を終えると、最適な温度環境を維持するため、出荷場大型保冷庫で保管。こうして穫れたて新鮮野菜をお届けする体制を整えている。

## <今後の展開>

- 共同出荷グループ「おおいたの有機」の取り組みで大口径販路拡大と流通体制の確立を目指し、大分県の有機農業の拡大に寄与していきたい。

## <基本情報>

所在地：大分県臼杵市

## <農場概要>

- 面積：6ha（有機JAS認証：4ha）
- 従業員：7名
- 栽培品目：かぼす（日本で唯一有機JAS認証）



## <有機農業に取組むきっかけ>

- 平成22年（2010年）、勤務していたかぼす農園の廃業に伴い、農園を引く継ぐ形で会社を設立。会社設立を機に差別化を図るため有機栽培に取り組む。
- 平成23年（2011年）に有機JAS認証（有機農産物）を取得。
- 平成30年（2018年）に有機JAS認証（有機加工食品）を取得。

## <販売について>

- 青果と果汁を卸売業者、インターネット通販、グリーンコープなどに販売。
- 果汁は、自社で搾汁・ボトルリングし、有機かぼす果汁100%として販売。
- 近年、家庭用の加工用原料として、規格外品の販売を開始。



【お問合せ先】TEL.097-578-1600

会社ホームページ <https://kabosu0974.jimdofree.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
土を健康にして、樹を健康に育てることが基本。樹の自己免疫機能を高め病害虫に強い樹にすることを大切にしている。
- **雑草対策**  
刈払い機と乗用草刈り機で年3回程度行う。地面が見えるまで刈らず、ある程度の高さを残すことで、草が夜露を集め土壌の保湿効果がある。
- **土づくり**  
特別な土づくりは行っていないが、刈取った雑草をその場に残すことで分解し肥料となる。その土地の雑草を肥料にするのが最も良い。

## <苦労しているところ>

- 有機栽培ゆえに人件費がかかる。草刈りにしても作業に何日もかけることで、当然人件費がかかる。

## <現場の課題>

- 現状の規模をいかに維持していくかが課題。

## <今後の対応>

- 令和3年（2021年）から輸出を開始。青果をドイツへ、果汁をドイツ・フランスへ、さらなる輸出拡大を検討中。



## <基本情報>

所在地：大分県臼杵市野津町

## <農場概要>

- 面積：6.0ha（うち有機：6.0ha）
- 従業員：9名
- 栽培品目：茶（生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 40年程前、先代が茶畑に農薬散布中、ホースがはずれ全身に農薬をかぶってしまい、体調を崩したことをきっかけに農薬を使わない有機茶栽培を開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得(大分県第1号)**

## <販売について>

- 自社工場、インターネットでの販売に加え、消費者に直接販売できるよう地元デパートに卸し販売している。
- 平成19年から香港やアジア圏に向け輸出を試行したが、オーガニックの認知度が低い等、継続的な取引に至らなかった。
- 平成27年からオーガニック志向がより高い欧米へ販路を変更。現在はフランスを中心にEU及び米国に輸出している。
- 令和5年には、茶園を一望できる場所にカフェをオープンし、緑茶のほか、抹茶、和紅茶、ほうじ茶、GABA茶やスイーツなどを提供。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・ 夏場に多発する炭疽病やハダニ等の対策として、二番茶収穫後に深刈りをして古い葉を落とし樹の若返りを図っている。
  - ・ 農薬は有機JASで認められているものであっても、使用せず強いこだわりを持って農薬を使用しない栽培を実践している。
- **雑草対策**

有機栽培では雑草処理が一番大変であり（特に幼木の頃）、直接シニア世代の方に除草作業を委託している。
- **土づくり**

独自のノウハウで配合した油かすや魚粉かすなどの有機質肥料は分解が遅いため、成分が効いて欲しい時期に最大限の効果が出るように施肥のタイミングに気をつけ、早めの施肥を心がけている。

## <苦労していること>

- 規模拡大を進めたが、除草作業などを任せられる責任者や作業員等の人材確保が課題。

## <今後の対応>

- 主力商品である有機緑茶に加え、抹茶、紅茶、GABA茶、ゆずやかぼすを緑茶に配合したフレーバー茶など特色のある商品を国内外へ展開していきたい。

【お問合せ先】TEL. 0974-32-4219

会社ホームページ <https://www.tkhs-cha.com/>

## <基本情報>

所在地：大分県豊後大野市（緒方町）

## <農場概要>

- 面積：3.5ha(うち有機：3.5ha)
- 従業員：2人
- 栽培品目：水稻、麦・大豆、野菜、かぼす、養豚



## <有機農業に取組むきっかけ>

- 父が有機農業を営んでいたことからその影響もあり、有機農業等を学べる高校へ進学。卒業後、大学で養豚を学び家業に就き、令和5年養豚を始める。
- 令和7年1月、事業継承。
- 平成19年(2007年)に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 有機食品等を取り扱う小売店や道の駅等での委託販売や宅配に対応。
- 加工品（かぼす果汁、黒米、黒米入りあまざけ等）のインターネット販売。
- オーガニックマーケットなど、直接消費者の方とお話できる場で販売。



手押し除草機

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
水稻は、みのる式のポット成苗システムにより、稲の能力を最大限引き出す。野菜は、入植当初は全滅することもあったが、徐々に圃場の生態系バランスが良くなり、5年～10年で病虫害のない土壌環境ができてきた。
- **雑草対策**  
合鴨農法、手押し除草機  
あめんぼ号（水田株間除草機）  
圃場内の雑草を草マルチとして利用
- **土づくり**  
米ぬか、おから、油かす、落葉や畦草を堆肥化しボカシ肥料として施用。また、豚糞を堆肥として利用することで「循環型農業」の輪がさらに大きく広がる。



あめんぼ号

## <苦労しているところ>

- 自然相手なので、病害虫・除草対策と土づくりは永遠のテーマ。
- 除草対策の合鴨が鳶(トビ)やカラスによる被害を受けている。
- 圃場が分散しているので、農作業や見回り等の手間が掛かる。

## <今後の対応>

- 慣行栽培に負けないくらい、安心して食べられる美味しい農産物を栽培する。養豚の規模を拡大し、有機畜産物の認証取得も視野に入れていきたい。



## 【お問合せ先】

TEL・FAX 0974-42-3501

ホームページ <https://ujamaa-farm.com>

## <基本情報>

所在地：大分県宇佐市安心院町

## <農場概要>

- 面積：有機JAS認証ほ場14.75ha（ハウス3.45ha、露地11.3ha）
- 従業員：約20名（代表含む社員3名、外国人材8名、パート8名（増減有））
- 栽培品目：ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス、その他葉物野菜



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災の影響により、有機ベビーリーフが不足していたため、ベビーリーフを栽培している茨城県の有機農業法人が技術提供する形で福岡県の有機農産物販売会社との共同で当社を設立。
- 平成26年（2014年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 販売先の8割近くは、スーパー等小売店向け（大半は関東へ出荷。一部大分県内へ出荷）。2割程度は、仲卸へ販売（主に福岡県）。
- 令和2年当初は、コロナ禍により一時的に売上が落ち込んだが、その後、コロナ禍の巣ごもり需要により回復し、売上は順調に推移。
- 販売先のニーズに応じて商品構成の見直し（内容量を細分化）等を行ったことが売上増に貢献した。



## <地域との交流について>

- 主な販売先のほか、地域の直売所でも販売。
- 市内のワイン祭り等に参加し地域とも交流。

【お問合せ先】TEL. 0978-58-3606

ホームページ：<https://ajimu-organic.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

ベビーリーフは播種から収穫まで2週間程度（春～秋）と作期が短く、病害虫被害のリスクは少ない。パクチーは、作期が45日～60日程度（春～秋）のためアブラムシ等の虫の被害はある。

### ● 雑草対策

ほ場周辺は、全て草刈機で除草。ハウス内は太陽熱処理や手刈りで雑草を除去する。露地の雑草は、耕耘作業及び草刈機等で除草する。

### ● 土づくり

赤土（粘土質）のため、成熟した土壌となるには時間がかかる。市内の酒造メーカーから焼酎粕を譲り受け、おからや米ぬか、牛ふん、鶏ふんを混ぜた堆肥（植物性原料主体）を自社で製造し使用。

## <苦労しているところ>

- 当初は、土壌が赤土で硬く、礫が多いため、耕耘作業が困難で、大きな石は手で拾いつつ作業を行った。

## <今後の展開>

- 約100棟のハウスのうち令和元年竣工のハウスは土壌が成熟しておらず、平成26年に竣工したハウスに比べ収量が劣るため、生産量の安定化が引き続きの目標。
- 当社主体の有機農産物集出荷体制の構築及び施設整備を検討。

